～欣浄寺法語メール～２０１８年５月～

「片思い」

「弥陀成仏のこのかたは　今に十劫をへたまへり・・・」正信偈の最初の和讃です。色紙に最初の２行を書き写し、その後小さく「お待たせいたしました　すみません」とつづられた方がみえます。仏さまに向かい口ではお経を唱えてはいるが、こころの中は雑念に満ちあふれている私がようやく御心がわかりました。十劫という計り知れない長い間仏さまが私を待ち続けていてくださったことへの感謝のお言葉なのでしょう。「心口各異（しんくかくい）口から出る言葉と心の中とは異なる」というお経の言葉が思いおこされます。そのような私であるからこそ見捨てないでいてくださる阿弥陀さまのはたらきを「摂取（せ

っしゅ）不捨」と説かれていますが、親鸞聖人は「仏さまに背をむけて逃げている私を追っかけて抱き取ろうとされるのです」とお示しくださいました。

　今春のＮＨＫ朝ドラは『半分、青い』、お隣の岐阜が舞台です。「東海のお天気、交通情報、トピックスなどなど」毎朝テレビから耳に飛び込んでくる「東海地方」ですが、三県ともお国なまりは独特だなと朝ドラの岐阜弁から感じます。その岐阜から東京に進学した主人公の幼なじみ（文武両道で好男子、女生徒だけではなく世代を超えた女性のあこがれ）
を毎日思い続ける母親のセリフが印象に残りました。

　「親は子供に永遠の片思いよね」

　逃げるものを追っかけて抱き取ろうなさる阿弥陀さまのお心と重なるようです。